

JP-MIRAI現場アカデミー インドネシア編 報告会

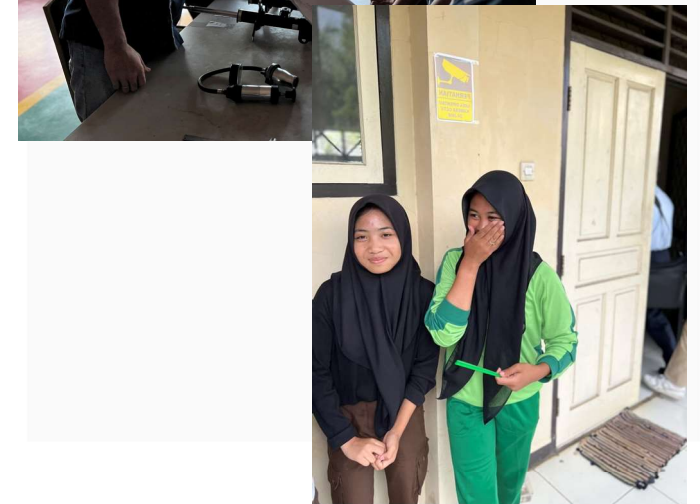
# 「監理団体から見たインドネシアの魅力と課題」

2024年1月16日

GMT協同組合 島巻弘充

## インドネシア>魅力について

- 2億7000万の総人口に、毎年300万人の労働若年層が生まれ、外国\_日本への送出しを政府も増やしたい方針を持つ  
(近々にはベトナムを抜いてインドネシアが在籍1位を見込まれている)
- 入国前の日本語教育に加え職業訓練期間の仕組みは、受入事業所のその専門性に繋がり易い  
(受入事業所の職種に合わせた適正人材の選任や、事前教育が可能)
- 従来の中東中心の送出しから日本へのシフトも拡大中
- 日本語教育の機会提供（国際交流基金）、日本語教育ガイド（JICA）などの事業計画が増加
- ツアー先々で接した人柄に、温和さ・親切さ・純粹さを感じ、日本の現場での歓迎度の高さに期待が持てた



## インドネシア> 課題

- 悪質な機関によるトラブル（宗教的・金銭的）回避
- 日本の人気は2～3位（韓国1位）
- 日本語教育費用の高額さ（N4取得まで約30万円）
- 一般的に日本式といわれる訓練手法（軍隊式）は、本当に今の日本が望んでいるか？ ・ ・ 共有できているか？
- 女性労働者の身分保護、ハラスメント排除



## インドネシアへの今後の取組み

### ➤ 重要な送出し国として、提携強化

- 技能実習生送出し機関
- 日本語教育含む訓練学校

### ➤ 製造業以外の職種・分野への展開

- 介護\_帰属意識が強く目上の人に対する敬いの精神、優しい心
- 農業\_タンジュンサリ農業高校の現地体験から
- 林業\_身近な課題業種（今後の深刻な担い手不足）⇔多い若年層への期待

### ➤ 「ゼロフィー」への取組み開始

- 現在の本人負担額も他国に比べ低い～実現性
- 政府方針にも、日本への送出し強い
- 政府機関-労働省からの助成金などの前例

